

平成25年12月

# 横山勝利 学位論文審査要旨

主査 小川敏英  
副主査 兼子幸一  
同 中島健二

## 主論文

Milnacipran influences the indexes of I-metaiodobenzylguanidine scintigraphy in elderly depressed patients

(ミルナシプランは高齢うつ病患者のI-MIBGの検査値に影響する)

(著者：横山勝利、山田武史、寺地紗弥香、朴盛弘、太田靖利、山梨豪彦、松村博史、中込和幸、兼子幸一)

平成26年 Psychiatry and Clinical Neurosciences 掲載予定

## 参考論文

1. Relationship between prefrontal function during a cognitive task and social functioning in male Japanese workers: A multi-channel near-infrared spectroscopy study

(日本の男性労働者における認知課題遂行中の前頭前野の賦活反応と社会機能の関連—近赤外線スペクトロスコピーを用いた検討—)

(著者：朴盛弘、中込和幸、山田武史、横山勝利、松村博史、寺地紗弥香、三谷秀明、足立昭子、兼子幸一)

平成25年 Psychiatry Research 214巻 73頁～79頁

## 審 査 結 果 の 要 旨

本研究は、うつ病が疑われた高齢患者を対象として、ミルナシプランがMIBGシンチに及ぼす影響を検討したものである。その結果、高齢の抑うつ状態の患者群において、ミルナシプランの服用は、MIBGシンチの3つの指標のうちearly H/M、delayed H/Mを低下させ、WRを上昇させた。その程度はDLBの臨床診断に影響し、偽陽性を招くほどであった。本論文の内容は、精神医学の分野で、DLBが疑われる抑うつ状態の患者にMIBGシンチを施行する際には、ミルナシプランを中止する必要があることを示唆するものであり、明らかに学術水準を高めたものと認める。